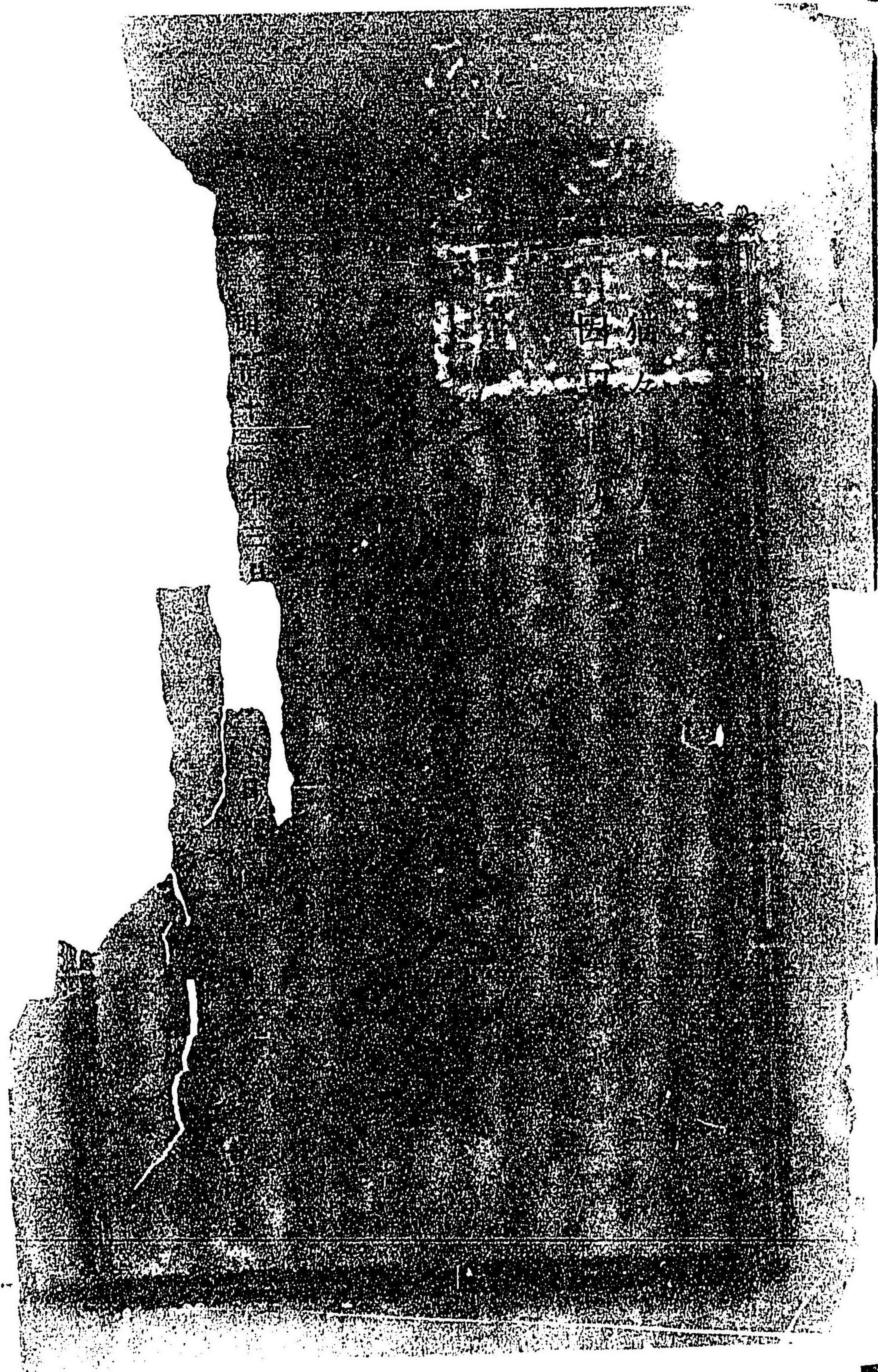


猫々笑談

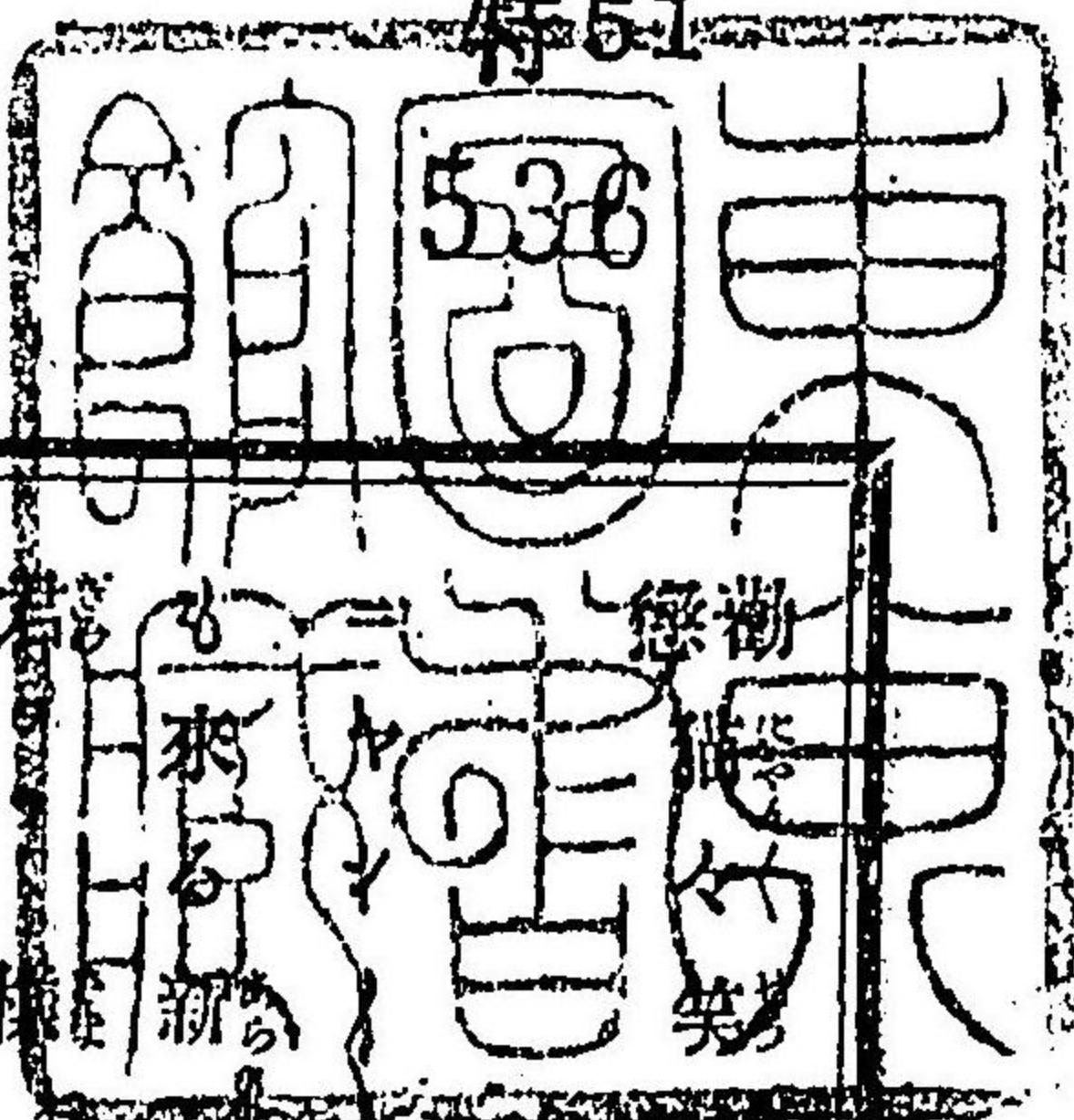
明治三十三年三月

持51

536



特5-1



勸業
雑誌

第一綴

猫々笑談編輯の主意

猫々笑談編輯の主意
 〳〳ニヤンとマア猫は蚊のと申す間に早く
 も来る新玉は明治十三年二月に上旬舊曆正月の元日御猫
 若し殿何れも一宛福は神さぬない催死は神に御土
 産と頂戴なされ子猫の中猫々々之古猫と順次は席と進み
 玉ひしのニヤニより御結構千萬著者に於ても五同様お歳
 を重ね追々お爺は稱號を頂くお近より申候者昨年中の五
 銘々五勉強抱主の目玉を忍びく暖味もあされ客と誤魔
 化しく大金も御貪りあく尋常一様男一疋猫一疋と御立
 通し成され候段患心の至り依テ龜末ながらかんな玉と
 凡そ猫と名れ付く御方様方への金一圓づゝ差上度と申



たれ所ぶが左様致しつゝの却て誤銘々誤迷惑手拭一筋も
 返禮お遣らふと思召ても才氣れ毒又手拭一筋を壹圓出し
 て頂戴するは著者も誤同様迷惑へ先づ此儀の誤廢止と
 致し申候左りながら一旦差上度と存込候上之何なりと差
 上申さすつゝの心あらず昔日々唐土にて唐變撲の原祖糞丁
 寧れ隊長と仰られたる毛唐甚太郎と呼べる男の土古登毛
 家内國へ使する途中物好喰一郎といへる呆漢又見へたる
 に彼の物好の履りお甚太郎が腰又在る赤鱗に目と付け
 如何おも欲しき様あると甚太郎疾く曉ると雖ども身の使
 者れ身分にこそまぶ君命と負擔するが故お之と彼又與ふる
 ろと能はず竊かお心と思ふ様歸路必せ之と與へんと然さ
 ども敢て人お語らず袂を分ちて出行きなり其後使を終へ

と歸り此度おそ彼れ赤鱗と與へんと態々其家お立寄て見
 れば物好喰一郎の此時既又鬼籍又轉トく最早世お在らざ
 りしうば甚太郎の大小歎死自ら心又思ふ様たとひ約束の
 せざりし又もせよ一旦彼お與へんと心に許せし此赤鱗現
 ら我腰又在りといへ既お我所有おわらさ然るお其人死
 せしとて素志又背くの義又ゆらさくと遂お其墓又行死右
 の赤鱗を石塔へ進上しく歸きりとぞ我も亦之お倣ひ一旦
 差上たれとれ存意を空々又附し去らざらめんが爲先今日
 より各位方れ穴の奥と搔書さぐり差上申べし之と本
 年の御年玉とこそ仕るなま借その趣向と申すの昨明治十
 二年我岡山お在りて滑稽家れ指令長官と仰おき蚤れ鐸玉
 ほどれ事と奈良の大佛れ尻れ穴れ様に書立るふとお妙と

得たる猫々山人がもれせられし花柳猫談てふ書又擬らへ
綴る外ならざれをを五愛顧に御方の一冊まれ二冊ま
れ買取く御茶菓子又代へ玉ひ春の夜の手枕ふ一見三笑と
玉のるべく又猫的先生方は甲斐あきたるん名を惜みく此
書は種とならぬ様五注意こそ願はしけれと下らぬことと
綴るおゑん

猫々珍寶

堅守法

白物多ク買手少キ時ハ直段下落シ買手多ク白物寡キ
時ハ直段騰貴ス是レ天理也直段廉キモノハ賤マレ直段高
キモノハ貴マル是レモ亦天理ナリ蓋シ是等ノ事ハ必竟理
屈ニ涉リテ面白カラヌヲ猶ホ仁王ニ末香ヲ喰ハシテ法華

經ノ講釋チナサシムルト一般ナリト雖モ苟モ猫々珍寶ノ
名アル以上ハ小ニモアレ大ニモアレ猫輩ノ珍寶トナルベ
キヲチ掲ゲザルベカラズ請フ其名稱ヨリ論シテ漸次ニ之
ヲ陳セン

抑モ猫ノ名ナルモノハ昔日ヨリ在リ來リノ名ニアラズ近
世一種新發明ノ名稱ナリ蓋シ三味線ノ胴猫皮ヲ以テ之レ
ヲ張ル三味線ハ彼ノ常ニ携フル所ナレバナリ又曰ク拙ト
ハ假字ヲ用非シモノニシテ其意ハ大ニ之レト異ナリ輾轉
古路々々俯伏ニ匍匐ニ横ニ仰臥ニ客ノ意ニ任セテ轉ビ々
々テ寝ルヲ以テナリ故ニ寝子ト稱スト夫レ然リ豈ニ夫レ
然ラソヤトハイヘ此説實ニ感ズベキモノアルナリ我輩試
ミニ古事付ケノ屁理屈ヲ並ベニ昔日ノ人ナリトテ三味

線ノ胴ハ猫皮ヲ以テ張リタルヲハ知ラザルニハアラザル
ベシト雖モ未ダ曾テ絃妓ニ被ラシムルニ猫ノ名稱ヲ以テ
セシチ聞カザルモノハ何グヤ三絃ハ猫皮ニモセユ彼ガ携
品ニシテ彼レ原來猫ニアラザレバナリ若シ夫レ携品ヲ以
テ其人ニ名シルガ如キハ月琴ヲ彈クモノナ月琴ト唱ヘ郵
便配達人ヲ書面ト稱シ書齋工ヲ指シテ筆ト名ケザルベカ
ラズ天下豈ニ斯ノ如キノ名稱アラシヤ然ルニ王政維新ノ
頃ヨリ絃妓ノ名稱漸次ニ變更シテ口ニモ猫筆ニモ猫何ニ
モ猫蚊ニモ猫ト終ニ絃妓ノ名稱廢セラレテ猫ト化シタル
モノハ畢竟其所以ナキニアラザルベシ著者本ト愚昧ナリ
故ニ其果シテ如何ナル事情アリテ茲ニ至レルヤチ知ル能
ハズト雖モ蓋シ或人ノ所謂ユル輾轉古路々々餘寢子ニ原

因セルニ外ナラザルナリ名稱スラ品行ノ爲メニ異ル如斯
シ昔日ノ絃妓ト同一視スベカラザルヤ察スベキナリ
遡ツテ考フルニ昔日ノ猫ナルモノ大概其品行方正（稀ノ品
行ノ絃妓アニシテ輕々シク枕ヲ持チ出スイナク又輾ブ
ナシ之レヲ玩ブ者モ亦轉ハザルニ愛テト寵セシナリ然ル
ニ今ノ妓ハ轉アチ以テ却テ人ニ寵セラレ何グ古今人情ノ
異ルヤ夫レ轉ンテ寵セラレトモノハ娼ナリ既ニ娼其人ア
リ何グ轉ガスニ絃妓ヲ嬰セン絃妓ノ愛スベキハ其轉グベ
クシテ轉ハズ金ノ力能ク彼レガ心情ヲ曉ハス能ハザルニ
在ルノミ然ルニ今ノ登樓家ナルモノハ却テ絃妓ノ能ク轉
グモノヲ愛シ轉ハザルモノヲ愛セズ何グ夫レ不當ナルヤ
蓋シ輾轉甲ニモ乙ニモ下紐ヲ解キ放チ身躰皮膚ヲ擲ケ出

シテ終ニ玉門開ナモ意ニ任シテ通行チ差許スモノヲ愛ス
 ルハ愚モ亦甚シキモノニシテ無風流ノ客ト稱セザルチ得
 ザルナリ試ミニ思ヘ花モ滿開スレバ樂シムニ足ラズ妓ト
 雖モ甲ニモ許サズ乙ニモ假サズ又我レニモ許サハルニ於
 テハ甚ダ味ナキガ如シト雖モ眞々ノ中幾分ノ愛スベク樂
 ムベキモノナシト云フベカラズ蓋シ自得ノ念ハ何人ト雖
 モ大小存セザルモノナシ故ニ其品行方正未ダ曾テ枕席チ
 人ニ許サハルガ如キノ妓アラハ必ズヤ已レ之レチものせ
 んトノ念チ生ゼザルモノハナカルベシ此念アルガ故ニ自
 然彼チ愛シ又寵スルニ至ル之レニ反シテ甲ニモ乙ニモ丙
 ニモ丁ニモ金次第後ト前ト横ト茶臼トチ論セズ客ノ意ニ
 任シテモのとるノ妓ハ我レニモ亦金次第之レチ許スベシ

ト雖モ既ニ斯クナルニ至リテハ娼妓ト一般水臭キヲハ精
 進料理ノ洗ヒ汁ノ如ク愛スベキ所ハ一點モナク唯一時精
 液チ洩スノ策ニ外ナラザルナリ故ニ是等ノ妓ハ決シテ人
 ニ珍重セラレトナシ畜ニ珍重セラレザルノミナラズ終
 ニ冠ラシムルニ輕蔑モ輕蔑モ輕蔑極リタル猫ノ名稱チ以
 テセラルトニ至ル「妓能ク思ヘ男子ノ心情ナルモノハ大抵
 前ニ述ブルガ如ク敢テ轉ブチ以テ愛スルモノニハアテザ
 ルナリ愛スルガ如キモ眞實愛シテ愛スルニ非ズ所謂ユル
 皮相ノ愛ナリ其證チ舉ルキハ古昔ノ妓ナルモノハ決シテ
 今ノ妓ノ如ク困苦シテ質チ置キ或ハ節氣ニナリテ金ノ無
 心ニ奔走スルナドノ醜体チナサハルモ充分ノ餘裕アリテ
 其身モ結構ニ其父母兄弟モ爲メニ結構ニ暮セシチ見テ知

ルベシ故ニ妓ナルモノハ宜シク向來品行ヲ改良シ漸次猫
ノ醜名ヲ蟬脱スルヲ務ムベシ然レモ首唱者アツテ之レ
ヲ團結約定スルニ非ンバ恐ラクハ事成リ難シ若シ妓中櫻
井靜氏其人ノ如キモノアラバ宜シク有志ヲ嘯集シテ速ニ
抱主ニ請願スル順序ヲナスベシ是レ余ガ熱心希望妓輩ノ
爲メニ伊羅佐留筆ヲ執ル所以ナリ

柔軟艶花惱人第一稿

岡山區榮坊ニ一楊茶屋アリ鶴家ト稱ス飼猫數疋赤、白、黒、斑
種類甚ダ多シ中ニ一麗猫アリ三子ト云フ齡本年十有七未
ダ老練ト云フベカラズト雖モ又以テ下手ト稱スルニ足ラ
ズ三子幼ニシテ孤ナリ其身大阪天滿天神ノ社側ニ生マル
鶴家ノ親玉之ヲ購フニ百七拾金ヲ以テシ終ニ伴フテ岡山

ニ歸リ舞妓トナシテ以テ世ニ公ニス實ニ明治十一年四月
猫ノ日ニシテ三子が十五歳ノ春ナリシ三子姿色アリ故ヲ
以テ客人ノ評判頗ニ高シ或ハ大金ヲ投シテ之レガ水揚ケ
(チツト)初瓜ヲチギラントスルモノアルニ至ル然レモ鶴家
ノ主人胸中本ト一物アリ敢テ輕シク之レヲ許サズ既ニシ
テ備中下道郡岡田村邊ノ一富豪ノ頗ル三子ニ流涎スルモ
ノアリ竊カニ主人ニ談ズルニ定情金ノ事ヲ以テス主人謂
ラク此人ヤ我が常ニ時望スル處ナリト内心悦ブコト大方
ナラズト雖モ輕卒ニ承諾シタランニハ定情金ノ多少ノ關
係ナキモ計ルヘカラズト態ト額ヲ縮メテ曰ク大爺ノ尊志
敢テ背悖スルヲ欲セズト雖モ奈何セシ此事計リハ本人ト
相談ノ上ナラザレバ何トモ蚊トモ保證仕リ難シ加フル三

子年少未タ情事ニ慣レズ此談ヲナス毎ニ未タ曾テ泣涕セザルナシ賤奴實ニ之レニ困シム蓋シ彼其容貌ハ五覽ノ如ク大ナリト雖モ其年僅カニ十五而モ十二月三十一日ノ午後十一時五十九分ノ出生ニシテ僅カ一分時間ヲ以テ一年トナセル女子ナリ故ニ縱令ヒ賤奴ハ受合申置シモ肝心要ノ場處ガお役ニ立タヌ様ニテハ實以テ致シ方無之トハイヘ大爺ノ仰セモ亦五最ニ存シ奉レハ速ニ三子ニ説諭シ甘味ク謙シテ大爺ノお望ニ隨ヒ申サント辨々茶羅々々左ナガラ漬薯汁ヲ糲デサスガ如キ受ケ答ヘニ客人先生益々涎ヲ垂ラカシツ、鼻毛ヲあせクル處ニテ文章ノ一大段落ナヨンノ柏子木ニテ幕

藝妓ノ品評

八重吉辨茶羅

愛吉江戸子

八重吉ハ岡山區可真坊由可里店出勤ノ猫先生也其人ハ顔ハ十人並ニシテ善トモ惡トモ評判ノ仕方ナシ唯頬ノ殺ゲタルト頤ノ長キト眼ノ銳キハ少々人目ニ立ツガ如シ身ノ丈ケ高カラズ低クカラズ瘦セタルガ如ク肥ヘタルガ如シ其乳ハ垂レ乳ニシテ毛ハ随分濃厚駕御ノ法最モ妙ヲ得タリト云(但シ是ハ世間ノ評判ニシテ著者其實際ヲ知ラズ)性辨茶羅ニ巧ナリ頗ル客心ヲ嚮ラカスニ足ル世其五口上ニ載セラレテ大金頂戴シテ賞フモノ幾人ナルヲ知ラズ

評憾ムベシ時代ノ異ナル皇天何ゾ蘇秦張儀ト夫婦ヲラシメザル

愛吉モ亦可真坊ノ馬骨也自ラ東京子ト稱シ鼻ヲオヤスノ

ミナラズ頻リニ東京語ヲ用ウ成程妙ニ巧ナリ蓋シ東京ノ
 馬骨ニシテ購ハレテ岡山ノ馬骨ト變ゼシモノナルベシ其
 人別嬪愛敬十分閉月差花モ畜ナラズトハ心醉社流ノ過賞
 ニシテ著者ガ眼ヲ以テ之レヲ看レバ目ハ仁王様ノ如ク鼻
 ハ大黒ノ如ク眉ハ達磨ノ如ク口ハ毘沙門天ノ如ク齒ハ酒
 呑童子ノ如シトハ是モ亦少シ云ヒ過ギカハ知ラテド何分
 窈窕嬋娟婀娜艷麗ナド立派ナ文字ヲ煩ハスベキ女ニテハ
 御座ナク候併シ彼ノ江戸子ヲ以テ一時岡山ニ鳴リ賞顯伸
 士ノ爲メニ愛デラレタルハ何ユリ五吉慶ノトヤ申スベ
 シ

評東京子ノ所謂ユル水道ノ水ヲ産^{ウチ}テ^ユツカツタ^チ嬋^チサ
 ノニシテハ左マデ色ノ白カラザルヲ怪ム

猫的ト娼妓ト此世ヲ害スル

ゴト孰レカ甚シキカヲ論ズ

三絃ヲ弄ンテ珍^{ツル}鶴^{ツル}天ノ音ヲ洩シ客ヲ慰マシムルモノ之ヲ
 藝妓ト云ヒ枕ヲ玩ンデ股池中白水ヲ釀サシムルモノ之ヲ娼
 妓ト云フ齊シク是レハ客様ノ五機嫌ヲ取り大金ヲ擲クシ
 ムルノ職掌ニシテ實ニ惡シキハ職掌ナリ然レモ一方ヨリ
 之ヲ看レバ又左様一口ニハ言ヒ憎キ場合ナキニ非ズ我儕
 太儀ナガラ之ヲ左ニ陳述スベシ
 凡ソ世ニ玩弄物トナシテ憂鬱ヲ散シ浩然ノ氣ヲ養フニ足
 ルベキモノハ多少金ヲ費サハルモノナシ假令ハ盆栽骨董
 ノ類ノ如シ抑モ無情ノ骨董スラ幾分カ心ヲ慰メ幾分カ金
 ナ費ス况ンヤ有情解語ノ花ヲヤ我心ヲ慰メ忘テ娛マシメ

隨テ大金ヲ要スルハ蓋シ理ノ當然ニシテ疑フニ足ラザル者ナリ
有情解語ノ花既ニ我心ヲ娛マシム何ゾ之ヲ無用ノ者トナシ
又有害ノ者トナスベケン然ルニ子獨リ其害ヲ論ズ何ゾ
夫レ無情ナルトハ助兵衛君ノ著者ヲ誥ルノ誤口上ナレトモ
著者ニハ確然タルノ目的アレバ敗テ敗北ニザルナリ甚張
先生等試ミニ思一思セヨ娼妓スラ多ケレバ則チ社會ヲ亂
ル況ンヤ妓女ノ名ヲ表ニ飾リテ暗々裏ニ娼妓ヲ働キテ口
ヲ糊スルモノ日ニ月ニ増加スルチヤ世間ノ道德ヲ墮シ社
會ノ禮義ヲ亂ル知ルベキナリ福井孝治氏嘗テ云ヘルヲア
リ世ニ道德ノ行ハルハト否ザルトハ娼妓ハ多寡ヲ以テ
之ヲ知ルベシト眞ニ格言ト云フベキ也試ミニ日本現今ノ

状態ヲ見ニ娼妓ノ多キ一之ヲ三十年以前ニ比スレバ果
シ幾何ナルカチ又其道德ノ衰ヘタルヲ看ユ之ヲ三十年以
前ニ比スレバ果シ幾何ナルカチ娼妓既ニ多ク道德既ニ
衰フ我國ノ振ハザルヲ知ルベキナリ而レモ更ニ一步ヲ轉
シテ其娼妓ニ就キ孰レカ世道ヲ害スルカチ看察シ去
レバ予輩ハ娼妓ノ世ヲ害スルヲ娼妓ニ勝レリト斷言セザ
ルチ得ザルナリ蓋シ娼妓ハ賣ルニ淫チ以テシ誤魔化スニ
股間ヲ以テスト雖モ是レ本ト其職分ニシテ之レヲ爲スナ
リ娼妓ノ之ヲナスハ決シテ其本職タルニ非ズ殊ニ娼妓ハ
獨身社流ノ情欲ヲ洩スノ具ニシテ幾分カ人ノ用ヲナスノ
ミナラズ和姦ヲ防グノ一術具タリト雖モ娼妓ノ如キハ之
レニ反シテ其娼妓ノ商業ヲ妨グルト人ヲシテ淫ニ陷ラシ

ムルノ一具タルニ過キズ况ンヤ黴毒検査ヲ受ケザルヲ以テ其身儘惡疾ノ淵ニ沈ミ續々他人ニ移シテ人ヲ惱スヲヤ之ヲ有害物ト云ハズシテ果タ何ヲカ云ハン故ニ我儕ハ切ニ望ム今ヨリ藝妓ヲ廢シテ悉ク娼妓トナシ一般ニ黴毒検査ヲ施行セラレノンヲ然ルルハ一時其人員ノ減ズルノミナラズ傳染毒ヲ免ル、ノ一益アリ余儕榎村京都府知事ニ入門シテ只管冀望スルモノナリ

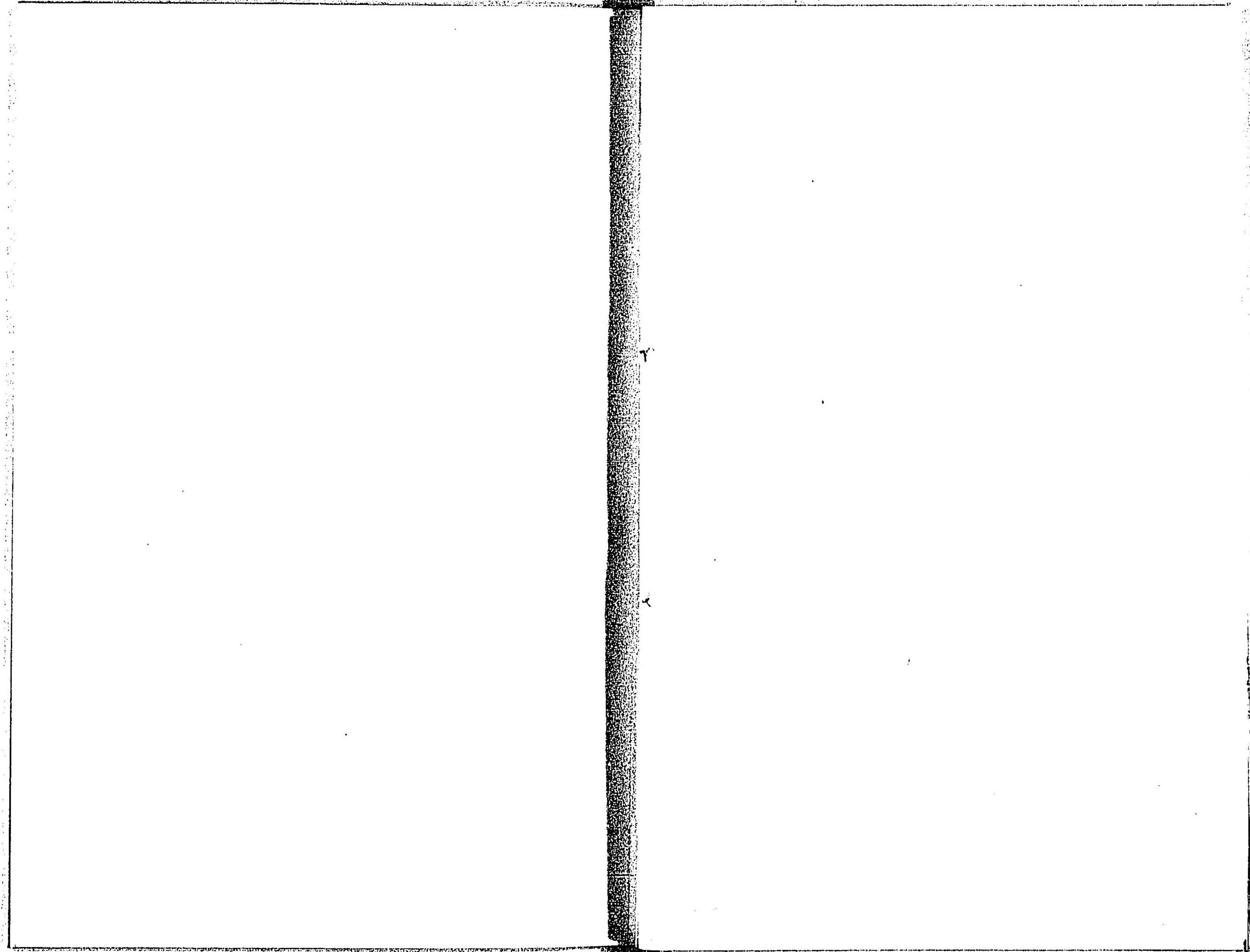
登樓廢スベキ說第一例

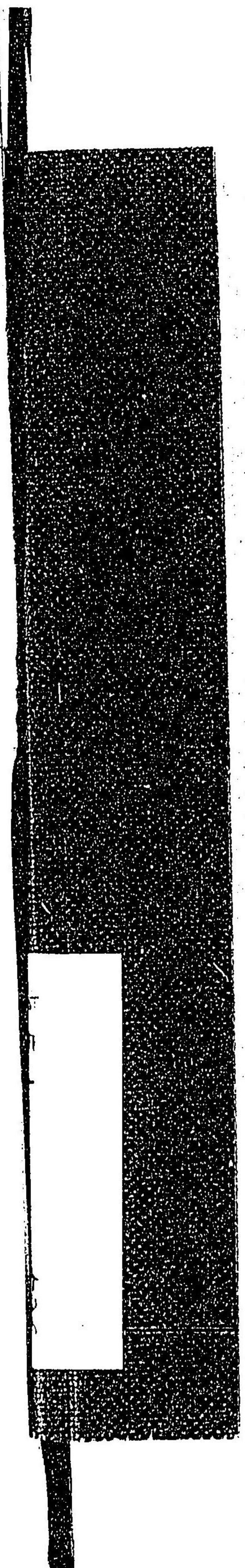
岡山區可真町邊ニ花ニ歌ヒ月ニ嘯クベキ一麗樓アリ其主人ハ某藩ノ舊臣ニシテ二百五十石ノ祿ヲ戴キ馬ノ尻ヲ切ル(チット)馬術ノ先生ヲ勤メシ人ナリ其人本ト乘馬ヲ本職トスルヲ以テ木馬イ竹馬ドッコイ女馬ニモ跨ルヲ毎日ナルヲ

*Der Bellotto dient auch dieses der Wiederherstellung der alten Viertel der polnischen Hauptstadt
s zweien Weltkrieges.*

BELLOTTO · Honigstraße in Warschau

MONTAG	4	11	18	25
DIENSTAG	5	12	19	26





特51

536

勸懲 猫々笑談

国立国会図書館

091827-000-0

特51-536

猫々笑談 第1綴

因果道人/著

M13

DBO-0344

